

| 最先端情報科学技術に触れる日星学生交流プログラム | |
|--------------------------|------------------------|
| 1日目 | 到着、太宰府天満宮見学 |
| 2日目 | アイスブレイク、学内研究施設見学 |
| 3日目 | 技術ワークショップ(アプリケーション制作) |
| 4日目 | 技術ワークショップ、熊本市内フィールドワーク |
| 5日目 | 制作物体験会、フェアウェル交流会 |
| 6日目 | 九州大学訪問、トヨタ自動車九州宮田工場見学 |
| 7日目 | 福岡空港より帰国 |

| 日泰の学生が科学技術アイデアソンを通してグローバルな視野を育む | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1日目 | 到着、太宰府天満宮見学 |
| 2日目 | アイスブレイク、熊本市内フィールドワーク |
| 3日目 | SDGs問題解決型アイデアソン、学内研究施設見学 |
| 4日目 | アイデアソン、食品サンプル制作体験会 |
| 5日目 | アイデアソン成果報告会、交流会 |
| 6日目 | 阿蘇探訪(阿蘇神社)、九重八丁原地熱発電所訪問 |
| 7日目 | 福岡空港にてお別れ |

◎ **タイ学生と高専生がグローバルな視野を育む**
 本交流プログラムでは、タイ王国スラナリー工科大学(SUT)の学生7名と教員1名、計8名を招へい

招へい学生は滞在中、技術交流だけでなく本校学生との熊本市内フィールドワークや部活動体験など、放課後の自由時間も共に過ごし友情を育んだ。このプログラムに引き続き、9月後半に本校学生が研修旅行でTPを訪れた時には、今回のプログラムに参加したTPの学生たちがホストとして本校学生を温かく受け入れてくださり、さらに絆を深めた。

夏休み中の9月上旬、7日間の日程でシンガポールのテマセクポリテック(TP)から学生9名と引率教員1名の計10名を招へいた。TPはデジタル時代にあつたさまざまな施設を有し、充実した学習環境の中で創造的思考を育み、産業界の変化に対応したカリキュラムが組まれている。本校とは20年近く交流があり専門性も近い。当該プログラム前半は、文化交流や研究室訪問、互いの技術を活かし日星ペアチームによるゲームアプリケーション作成に取り組んだ。後半には九州大学を訪問し、最新の技術動向についての講演を聴講させていただいた。またトヨタ自動車九州の工場を見学することで、現場の技術レベルについて学ぶ機会をいただいた。オートメーション化された工場内で、車種や仕様の異なる受注車がスムーズに生産される様子が見られた。

◎ **最先端情報科学技術に触れる日星学生交流プログラム**

シップ等を通じて、学生の異文化理解力や英語によるコミュニケーション力を高め、さらには国際的視野を広げ、多様化する社会で活躍できる技術者を育成してきた。これらの交流活動に対し、科学技術振興機構(JST)のさくらサイエンスプラン(SSP)にかねてより支援いただいております。2019年度は2つの交流プログラムを採択いただいた本稿では、それら2件の活動事例を紹介し、国際交流活動を通じた効果について触れたい。



大隈千春
 (熊本高等専門学校
 GLセンター准教授)

熊本高専の活動報告

科学技術振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第116回

II 特別シリーズII

※現在、さくらサイエンスプランは新型コロナウイルスの感染防止のため、今年度のプログラムの実施を延期しています。

国際交流を通じて相互に国際理解と技術力を高めよう
 世界ではグローバル化がますます進み、問題解決力、コミュニケーション力、チームワーク力を身に着けた国際的に通用する技術者の育成が強く求められている。熊本高等専門学校では海外協定校と協働しながら、海外研修旅行や国際交流プログラム、海外インター



フェアウェル交流会



作成するアプリを相談し合う学生たち



成果報告会でアイデアを発表する参加者



熱心に質問する参加学生@九州大学講演会



別れを惜しみ合う学生ら

した。SUTとは交流協定校を結んでいたが、実際に交流活動を実施したのは今回が初めてであった。「持続可能な開発のための2030アジェンダ・SDGs」を主軸に、本校1年生22名、さらに短期留学滞在中のシンガポール人留学生7名を加え、日泰星多国籍チームによる問題解決型アイデアソンを実施した活動開始直後は、タイ語なまりの英語、シンガポールなまりのシングリッシュ、1年生の未熟な英語とコミュニケーションに苦労するチームもあったが、すぐに打ち解け、水害や地震、水・衛生問題、貧困などの社会問題など、解決を目指すテーマを各チームが決定して取り組んだ。多国籍チームでの活動は、グローバルな視点で考える機会となり、お互いの国や地域、身の回りにおける問題、世界で生じている問題について問題の背景や具体例をあげ、各自の専門分野を活かしながら、時には専門分野の枠も超えて解決のための技術やアイデアを熱心に議論していた。本校1年生全員を聴講者として行なった報告会では、発表者が工夫を凝らした発表は直接交流会に参

加できなかった学生達にとっても刺激となったようである。

◎参加学生の意識が変わる

国際交流に対し「敷居が高い」と感じる学生も多い。参加を躊躇う学生もいるが、短い期間であっても海外の同世代の学生と交流を深めることで、日本人の参加学生も徐々に自信がつき、「将来は自分も海外に積極的に飛び出したい」という気持ちになる学生が少なからずいる。このことから、学生同士の国際交流活動は学生の意識を変える貴重な機会である。特に昨年度は1年生にも国際交流の機会を設けることができ、今後の彼らの成長が楽しみである。SSPは来日経験のない海外の若者に日本の良さを知ってもらい、彼らの再来日につなげることも目的とされている。今回来日した学生からも、将来留学などで再来日したい気持ちを強めてくれたようである。交流会は我々教員にとっても今後の交流をより発展させるよい機会となった。ご支援いただいたJSTには心より感謝申し上げます。

◎グローバル教育に対する学校全体の今後の計画

現在、高専機構では高専生の国際理解向上を図る環境整備として、日本人と留学生が共に生活する国際寮の設置を推進しており、熊本高専でも2021年度の運用開始に向けて準備を進めている。本校は、今年度(2020年度)もSSPより3プログラムを採択いただいた。世界中で猛威を奮う新型コロナウイルスの影響を受け、現時点では実施については見通しが立たない状況ではあるが、一日も早い世界の保健衛生状況の正常化を願い、交流活動を再開できる日を心待ちにしている。